

## 1. 研究テーマ「企業連携による商品開発」

## 2. 研究目的

本校では地元の企業である初崎製作所と提携して商品開発を行っている。企業側から女性をターゲットとした新商品のアイデアを求められている。そこで高校生らしい発想で新商品の提案を行い、実際に商品化されることを目指して商品開発を行う。

## 3. 研究内容

昨年本校の文化祭にキッチンカーで出店をしていただいた事がご縁となり、初崎製作所さんとコラボレーションをする運びとなった。初崎製作所さんでは自社農園で栽培している「しなのあまぐり」と茶葉をブレンドした紅茶葉「美栗」を生産されている。その「美栗」を使用した新商品の開発をすることとなった。その際、お菓子類などの食品も検討を行ったが、オリジナルドリンクで新商品の開発を行うことにした。高校生らしい発想を生かした商品を開発することと、開発する以上は定番メニュー化されることを目指したい。



初崎製作所さんに「美栗」を提供していただき、班員全員が一人一つの案を持ち寄り、オリジナルドリンクの試作会を行った。全員で投票を行い、その中で一番良いものを選んだ結果「コグミクリサイダー」が選ばれた。これは「美栗」をサイダーで割り、食感も楽しんでもらうために「コグミ」というグミや複数のフルーツを入れたものである。紅茶とサイダーという新しい組み合わせや、様々な食感が楽しめること、見た目がカラフルで綺麗だということからも高校生らしい商品であることが理由として大きい。

しかし「コグミクリサイダー」を実際に文化祭で販売し、購入者からアンケートをとった結果、いくつかの課題が見つかった。その課題は、グミが冷えて硬くなってしまうこと。具材が多いため調理の段階で材料費や手間がかかってしまうこと。ストローで吸いにくいことが挙げられた。これらの点を改善するために改良を加えることになった。私たちは商品の食感にこだわっていたため、グミをどうするか検討した。そこでゼリーに置き換える事で食感の楽しさはそのままに飲みやすくすることができた。また材料費やカットに手間がかかるフルーツに関しては、予めカットされた冷凍イチゴを使うことで、材料費と調理時の手間を抑えることができた。ストローで吸いにくいことについては、市場にある最も大きいプラスチックストローを使用していたため、これ以上の改良は難しいとなった。



こうした改良を加えて完成したのが「しゅわしゅわサンセットティー」である。これは、イチゴゼリーと冷凍のカットイチゴを炭酸で割った紅茶の中に入れたものである。サイダーよりも紅茶の風味を際立たせることができた。また紅茶とゼリー、イチゴの色合いをグラデーションにし「映え」も狙える商品となった。商品名の由来には、色合いが夕日のように見えることと、「しゅわしゅわ」と付けることで高校生らしいポップで可愛らしい印象を与えることが込められている。



以上のような過程を経て、「しゅわしゅわサンセットティー」が商品開発された。実際に様々なイベントで販売し、アンケートを取り課題点や反応を見ることとなった。その結果、やはりストローで吸いにくいという意見があった。また、販売した時期が寒い時期だったため、冷たくさっぱりとした飲み口の「しゅわしゅわサンセットティー」はあまり需要を感じなかったといえる。販売する時期を温かい時期だけにするなど対策が必要となった。

しかし私たちがアンケート調査したイベント以降も「しゅわしゅわサンセットティー」は80杯以上売れたことや、一年間の販売の実績を踏まえて、初崎製作所さんよりメニュー化していただける運びとなった。販売後の振り返り際には「自分たちでは考えられない高校生らしい商品を作ってくれた」「映えを意識した面がよかった」などのコメントをいただき良い評価を得られることができた。

#### 4. 反省感想

以上の活動を通して、自分たちで新たなものを作ることの大変さや消費者の立場に立って考えることの大切さを学べたと感じる。また、商業科で学んできたことをしっかりと生かすことができたのでとても良い経験になったと考える。

コロナ禍の高校時代を過ごしてきた私たちにとって、大人数で協力して何かを成し遂げることはあまり経験の無いことであった。今まで経験してこなかった、他人と協力しなければならない故の大変さや一体感、達成感を得られたことはとても成長につながったと考える。

